



2021年1月18日

各 位

会 社 名 株式会社トランスジェニック
代表者名 代表取締役社長 福永 健司
(コード番号 2342 東証マザーズ)
問合せ先 取締役 経理財務部長 渡部 一夫
(電話番号 092-288-8470)

通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2020年11月12日に公表いたしました2021年3月期通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 通期連結業績予想の修正について

2021年3月期通期連結業績予想値の修正（2020年4月1日～2021年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	10,500	450	400	280	16.12
今回修正予想（B）	10,900 ～11,200	700 ～900	650 ～850	500 ～650	28.79 ～37.43
増減額（B－A）	400 ～700	250 ～450	250 ～450	220 ～370	—
増減率（％）	3.8 ～6.7	55.6 ～100.0	62.5 ～112.5	78.6 ～132.1	—
（参考）前期実績 （2020年3月期）	11,046	173	94	△440	△25.38

2. 修正の理由

創薬支援事業に関しまして、2020年4月に開始した新型コロナウイルス検査（PCR検査）の当第3四半期の受託件数は、北海道における新型コロナウイルス感染症の急激な感染再拡大を受けて、2021年3月期通期連結業績予想を公表いたしました2020年11月12日時点の見込みより大きく伸長しております。また、非臨床試験受託等のその他の創薬支援事業につきましても、WEB面談等を中心としたコロナ禍での営業活動の取り組みが定着してきたことを受けて、順調に受注を伸ばしてきております。

なお、新型コロナウイルス検査の受託動向や、主要都市で発令された緊急事態宣言が非臨床、臨床試験の今後の受注及び試験進捗に与える影響を精緻に予測することは困難であるため、現時点で予測でき

る範囲の業績影響要因を一定程度織り込んだ上でレンジ形式による業績予想の開示といたします。

TGBS事業に関しましては、強みであった独自の仕入ルートがコロナ禍において奏功し、魅力的なトレンド商品を取り扱うことができ粗利の改善が進んでいるほか、消費低迷と巣ごもり需要の減退を想定しておりましたが、11月以降は想定以上に復調し12月も想定を上回る注文を受けております。

以上の想定のもと、通期連結業績は、売上高 10,900～11,200 百万円(前回予想比 400～700 百万円増)、営業利益 700～900 百万円(前回予想比 250～450 百万円増)、経常利益 650～850 百万円(前回予想比 250～450 百万円増)、親会社株主に帰属する当期純利益 500～650 百万円(前回予想比 220～370 百万円増)となる見込みであります。

なお、各セグメント別の売上高及び営業利益の内訳は下記の通りです。

セグメント別の今回修正予想と前回発表予想

	今回修正予想		前回発表予想		増 減			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高		営業利益	
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	%	百万円	%
創薬支援事業	3,500 ～3,800	620 ～820	3,200	400	300 ～600	9.4 ～18.8	220 ～420	55.0 ～105.0
TGBS事業	7,420	230	7,320	200	100	1.4	30	15.0
(Eコマース)	(5,300)	(200)	(5,200)	(170)	100	1.9	30	17.6
(その他)	(2,120)	(30)	(2,120)	(30)	—	—	—	—
全社調整	△20	△150	△20	△150	—	—	—	—
合計	10,900 ～11,200	700 ～900	10,500	450	400 ～700	3.8 ～6.7	250 ～450	55.6 ～100.0

(注) 括弧内の金額は、TGBS事業の各内訳金額であります。

(注) 上記予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上